

# 広島県内の公立高普通科

# 専門コース光る個性

グループで意見を交わす舟入高国際コミュニケーションコースの生徒



少子化で学校間競争が高まる中、広島県内の公立高の普通科に設けられた専門コースの存在が、学校の特色づくりに力を発揮している。英語力だけでなく国際的に通用する人材の育成、芸術や理数など得意分野を伸ばせるカリキュラムが特徴。早くから専門を絞りすぎず、生徒が進路を熟考できるのも魅力だ。

(山本乃輔)

広島市中区の市立舟入高国際コミュニケーションコースの授業。「His decision was wrong. Because... (彼の選択は誤っていた。なぜなら...)」生徒は自らの意見を英語で発表する。

他人の子の命を犠牲にして、自分の高級車を守った男性にまつわる英文の物語が教材だった。読んだ後、男性の判断が正しいか、どうかを日本語でグループ討議。意見を英語で発表しあった。

この結果を踏まえ、次の授業では「貧困を救うため、何円まで出せるか」を考えた。国際問題に関心を持ち、考えを発信できる人材育成を狙う。

「じっくり探せる」

同コースは1998年度に設置した。定員は普通コース320人に対して40人。通常より英語の授業が週2〜6時間多い。留学生とも机を並べる。2年の山根結衣さん(17)は「緊張しやすかったが、今は英語で留学生に話しかけ、意見を言える」と喜ぶ。卒業生は13期に上り、進

## 進学や進路に反映 人材育成に手応え

路は非政府組織(NGO)、韓国企業、国際線の客室乗務員など。留学先も英語圏に限らず、フィンランドやイランなどさまざまで、そのまま現地で就職する例も目立つ。同コースの上川英紀教諭は「国際化はより「適性や得意な分野をじっくり探せる。芸術家に限らず、教諭志望での国立大学しつこある」と手応えを話す。進学にも対応できる」と、メリットを話す。

普通科への専門コース設置は、広島県内で計8校。県教委が入試改革の一環で98年度、2、3校を一組にして入試をする総合選抜制を廃止し、各校の単独選抜制に切り替えたことがきっかけだった。特色づくりが課題となり、2003年時点では13校が設置。生徒のニーズに合うコースが残ってきた。

安定した志願倍率

13年度の公立高普通科の志願倍率は、推薦、一般を合わせて1.29倍。舟入、基町、沼田の市立3校の普通科専門コースは1.05、1.93倍と安定している。

市教委指導2課の登民夫課長は「近い距離にある市立高は、特色を出さないと生徒が集まらない。今は各校が持ち味を發揮している」と話す。

広島大学院の河野和清教授(教育行政学)は「早くから得意分野を伸ばせるのは生徒にとって有益だ。ただ、国語や日本史などの基礎科目をしっかり学ばないと、どの分野でも通用しない。本末転倒にならないよう、カリキュラム編成に注意する必要がある」と助言している。

中国地方の公立高普通科に設けられている専門コース
広島 舟入(国際コミュニケーション)、基町(創造表現)、沼田(体育)、美鈴が丘(国際理数=2012年度から募集停止)、国泰寺(理数)、祇園北(同)、大門(同)、尾道東(国際教養)
岡山 総社(自然探究)、倉敷中央(子ども、健康スポーツ)
山口 西京(体育)、佐波(福祉=2012年度から募集停止)
鳥取 八頭(探究文科・探究理科、体育)、鳥取中央育英(体育)、米子東(生命科学)
島根 なし